

政務活動調査研究報告書

福島町議会議員 溝部 幸基

I. 視察研修地

1. 富岡町（福島県）：令和4年10月17日(月)

II. 視察研修内容

1. 双葉地方広域市町村圏組合有害鳥獣処理施設視察調査

<視察説明者>

双葉地方広域市町村圏組合 事務局長 阿部 敏明

次長(会計管理者) 鈴木 孝治

参事(総務課長) 松本 健

環境衛生課長 石橋 久

施設維持係長 緑川 彰泰

環境衛生主事 紺野 真慧

III. 視察調査成果

今回の視察研修は、町から有害鳥獣処理施設整備計画が示されたことから、先進的な処理方法を実践している双葉地方広域市町村圏組合（福島県富岡町）の有害鳥獣処理施設を視察調査した。

1. 双葉地方広域市町村圏組合の概要

福島県東部の浜通りのほぼ中央に位置し、広野町・檜葉町・富岡町・川内村・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村の6町2村で構成されており、消防・し尿処理・ごみ処理・産業廃棄物最終処分・斎場等多岐にわたる共同処理を実行している。平成22年国勢調査時点の総人口は72,812人、世帯数が25,466世帯、東西30km、南北40km、総面積865.12km²に及び、夏は涼しく、冬は温暖で、住みやすい地方となっている。しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災・原子力災害により警戒区域となり、地域住民の多くは避難生活を余儀なくされておりましたが、区域の再編や校正町村の復旧・復興・再生事業等により徐々に人口が戻りつつある状況となっている。

2. 有害鳥獣処理施設の概要

- ・施設面積：延280m²
- ・建設事業費：120,134千円（財源：原子力災害避難区域等帰還・再生加速事業国庫委託金）
- ・処理方式：微生物による有機物の分解処理方式（処理後は水と二酸化炭素に分解される）
- ・処理能力：600kg/日（200kg/3基）
- ・施設運営費：全額、原子力災害避難区域等帰還・再生加速事業国庫委託金対応

3. 有害鳥獣処理施設建設に至る経緯

大震災による住民の避難以後、野生鳥獣による被害が各地で問題となり、特にイノシシによる住宅地や農地等の掘り起こし被害が多発した。各町村で捕獲・殺処分・仮埋却を実施し、広域圏組合としても、殺処分し解体後に搬入されたイノシシ等を組合の焼却施設で処理していた。

捕獲頭数が増え、処理量に限界があることから、解体の負担軽減を図るため、広域的な新たな処理を検討し、解体前処理を行わず効率的に減容できる設備の新設を計画、平成30年7月に1期目を導入。平成30年7月、令和2年11月にそれぞれ1基ずつ増設し、現在3基が稼働している。

4. 処理量実績：令和4年9月末現在

年度	イノシシ		その他鳥獣		合計	
	処理数 (頭)	処理重量 (kg)	処理数 (頭)	処理重量 (kg)	処理数 (頭)	処理重量 (kg)
H29	160	5,497	13	69	173	5,566
H30	1,659	48,170	199	587	1,858	48,757
R01	2,041	65,533	278	1,181	2,319	66,714
R02	1,944	50,829	326	1,417	2,270	52,246
R03	1,379	41,535	326	829	1,705	41,535
R04 (4～9月)	149	4,825	155	349	304	5,172
累計	7,332	215,558	1,297	4,432	8,629	219,990

*狩猟期の10月から処理量が増加する。

*その他鳥獣：アライグマ、ハクビシン、狸、キツネ等

5. 鳥獣処理施設消耗品交換費用(1基・1回分の費用)

全量引抜に要する資材等	① 単価 (1000L) ② 単価 (10 kg)	容量	金額 (円)
① 処理用助剤：4000L	41,000	4回	164,000
② 処理用微生物：4000Lに対して40kg	40,000	4回	160,000
計(税抜)			324,000

6. 処理量と放射性物質の状況：〈単位：Bq/kg：Cs-134・Cs-137計〉

令和4年	処理量 (kg)	肉片 イノシシ	助材 (1基)	助材 (2基)	助材 (3基)	集塵機 結露水	脱臭機 循環水
4月	1基:428 2基:1060 3基:388	179.8	328.7	415.2	381.6	不検出	不検出
5月	1基:178 2基:883 3基:739	13.4	404.7	479.2	483.6	不検出	不検出
6月	1基:144 2基:489 3基: 0	72.7	431.0	619.3	541.4	不検出	不検出
7月	1基:141 2基: 95 3基: 10	220.0	116.0	223.0	146.0	不検出	不検出
8月	1基: 48 2基:134 3基: 0	217.6	92.9	328.0	435.9	不検出	不検出
9月	1基:188 2基:352 3基: 0	107.0	152.0	297.2	133.0	不検出	不検出

7. 収支決算状況（令和3年度決算：鳥獣処理費）

（単位：円）

	当初予算	補正予算	決算額	節		不用額	備考	
				区分	金額		細節	金額
鳥獣処理費	44,559,000	△6,120,000	38,439,000		38,317,439	121,561		
				需用費	6,058,000	19,653	消耗品費	2,670,800
							光熱水費	3,367,547
				役務費	96,000	2,908	各所手数料	6,000
							各種保険料	87,092
				委託料	25,466,000	97,160	施設運転管理委託料	18,392,000
							放射性物質検査委託料	6,794,700
							電気保守点検委託料	158,400
							浄化槽維持管理委託料	25,740
				使用料賃借料	6,817,000	1,840	仮設倉庫	2,851,200
						鳥獣処理装置借上料	3,603,600	
						フォークリフト借上料	360,360	

8. 処理施設運転管理委託設計書

仕様	数量	単価	金額	摘要
施設運転管理 （日曜、祝日は含まない）				
1. 直接経費 運転作業員（賞与含む）	2名/月	594,000	1,188,000	
2. 安全対策費 マスク、タイベック	2名/月	45,000	90,000	
	2名/月	2,500	5,000	
	2名/月	1,500	3,000	
3. 諸経費	1式/月	181,000	181,000	
① 小計（月額）			1,467,000	
② 年額（1×12カ月）			17,604,000	税抜
③ 年間消費税			1,760,400	
合計 ②+③			19,364,400	

9. 視察調査考察

エゾシカ頭数の急激な増加は、農作物・森林資源等への甚大な被害をもたらしており、西海岸地域への出没は年ごとに増大し、近年は市街地域への出没・被害も頻繁に発生する状況となっている。当町の捕獲数は、平均100頭が限界の状況であり、早急な対策が喫緊の課題となっている。特に、捕獲後の処理対応が大きな負担となっている。渡島西部広域4町の共通課題として、担当課・首長等で広域事務としての取組みを検討したが、4町それぞれの取組み状況の差異が大きく、将来的に広域化を目指すのが、

先ず、福島町が単独で衛生センター用地内に設置することとなりました。

当初検討段階では、深川市等で実施している減容化処理方式（木材チップと微生物を使用し菌床に鳥獣個体を投入し分解処理をする方式）を検討したが、処理残渣、処理の段階で発生する臭気対策が課題となり、先進実践事例を調査・視察の結果、作業が簡易で、脱臭装置により臭気が大幅に低減される福島県双葉地方広域市町村圏組合の有害鳥獣処理施設の方式（好気性菌を使用した分解型の処理システムで、鳥獣の皮・骨・肉・臓器すべてを水と二酸化炭素に分解する方式）への変更を検討することとなったことから、議会としても、実際に現地を視察調査し適否を判断することとした。

鳥獣被害の背景は異なるが、エゾシカ増加・被害の状況、捕獲処理体制の現状を踏まえて考慮すると双葉地方広域市町村圏組合の処理方式で計画を進めるべきと思慮する。検討にあたっては、当初計画額より大幅に増額となることから、国・道等の財源確保に最善を尽くし、広域化に向けてさらに努力を尽くすことを期待する。